

6. 「MRIの危機管理」 ～検査中に巨大地震が起きたら～ 【安全なMRI検査を考える会 第2回 MRI安全Webワークショップ】

内田 幸司 情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター

東日本大震災から10年、今、震災の危機が叫ばれており、首都直下地震や南海トラフ巨大地震など、マグニチュード8～9の大地震が発生する確率は、今後30年以内に70%以上と予測されている(図1)。大地震に襲われた時、MRI室はどうなるのか？患者やスタッフを守るため、どのように救出・避難すればいいのか？さらに、強磁性体の吸着やクエンチによる二次災害を防ぐためにどうすればいいのか？安全なMRI検査を考える会では、震災を体験された方や実態調査をされた方に出演いただき、避難シミュレーションを基に、震災に備える最善の方法を参加者と一緒に考える「第2回MRI安全Webワークショップ『MRIの危機管理』～検査中に巨大地震が起きたら～」を、2020年11月19日に開催した(司会進行：土井)(図2、表1)。本稿では、そのワークショップの内容を、当日のスライドやアンケート結果も交えて解説する。

MRI安全Webワークショップとは

本ワークショップは、安全なMRI検査を考える会主催のウェビナーである。一般的な聴講中心のウェビナーではなく、さまざまなオンライン技術を駆使し

たOJT (on the job training: 現任訓練) や実践シミュレーションなども取り入れた視聴者参加型のワークショップであり、「安全で質の高いMRI検査を実現する」とともに「国民の安全および健康増進に寄与する」²⁾ことを目的とする同会の活動の一つである。

第2回ワークショップでは、第1部

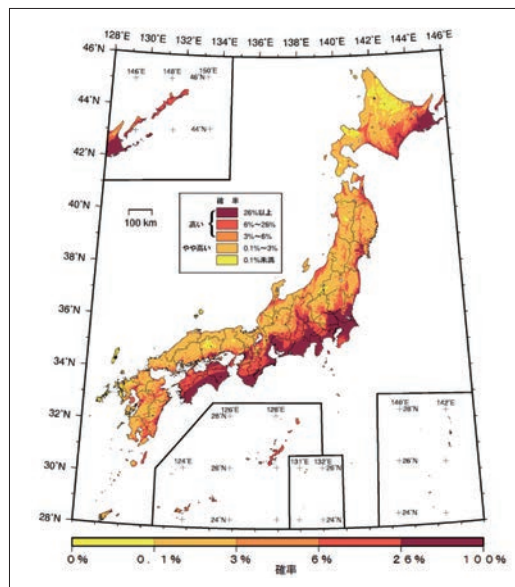


図1 今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率(参考文献1)より引用転載)



図2 第2回MRI安全Webワークショップアーカイブ配信ページのQRコード(視聴は有料です)

表1 第2回MRI安全Webワークショップの登壇者

- 司会進行：土井 司(高槻会高井病院)
- コーディネータ：内田幸司(情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター)
- コメントータ：平野浩志(抱生会丸の内病院)，土橋俊男(日本医科大学付属病院)，平出博一(元・JIRA安全性委員会委員長)
- ゲストコメントータ：引地健生(ひろせ会広瀬病院)，永坂竜男(東北大学病院)，野田誠一郎(熊本中央病院)
- シミュレーション：山本晃義，MRI担当スタッフ(共愛会戸畑共立病院)